

人に言えない、聞けない

“アソコ”の 悩み!

『安心』 相談室 11

お尻はできものが できやすい部位

「出物腫れ物所嫌わず」という言葉があるくらい、できものはどんな場所にも出現します。顔などに見えるところにできるのも困りものですが、案外厄介なのが、お尻のできものではないでしょうか。ご質問のかたのように、痛みで日常生活に支障が出ることも多々あります。実は、お尻はできものが比較的できやすい場所です。お尻の皮膚はどうしても蒸れやすく、そのうえ立ったり座ったり歩い

今回の悩み (お尻のできもの)

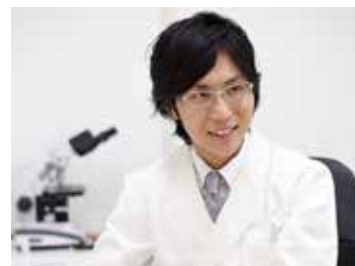
お尻と太ももの境に大きなおできのようなものができてしまい、ちょっと触るだけでもものすごく痛みます。実は以前にも同じ部位に同じようなものができ、その後しこりが残りました。これは皮膚科に行けば完全に治るのでしょうか。

(50代女性)

今回の回答者

渋谷駅前おおしま皮膚科院長

おおしま のぼる
大島 昇



2005年、筑波大学医学部卒業。三井記念病院皮膚科、日本赤十字社医療センター皮膚科等での勤務を経て、14年に渋谷駅前おおしま皮膚科を開院。皮膚に関するさまざまな疾患の診察、治療を行う。特に粉瘤(アテローム)の日帰り手術(くりぬき法)は、年間3500件を超える手術を実施している。
<http://shibuya-hifuka.jp/>

たりと、動くたびに刺激を受けるので、炎症が起こりやすく、できものが悪化しやすい部位となります。

一口にお尻のできものといっても、誰もが知っているニキビから、脂肪細胞が増殖してできる脂肪腫、体毛が毛穴の中に入り込んで起こる毛巣洞など、いろいろな種類があります。また、肛門近くのできものが、痔の一種である痔ろうである場合もあります(左ページ表参照)。こうしたお尻のできものの中で、比較的多いのが「粉瘤(アテローム)」です。私のクリニ

ックでも、粉瘤の手術を1日に平均12件行っており、昨年(2016年)の1年間だけでも、3530件行いました。

粉瘤は、ウイルスの感染や外傷などさまざまな原因でできる良性の腫瘍です。皮膚中に皮膚と似た構造をもった袋ができ、内部に角質(皮膚の最も外側部分)がたまっています。粉瘤の患者さんの多くは、このしこりを「脂肪の塊」と表現されますが、粉瘤の本体は、脂肪の塊ではなく、皮膚と似た構造の袋に包まれた、長年たった垢です。

通常、私たちの皮膚は古くなった角質が垢となってはがれ落ちますが、粉瘤では排出されなため、袋の中に蓄積されてしこりになってしまいます。

初期の粉瘤は、しこりが小さくニキビと勘違いしがちですが、しこりは次第に大きくなります。中には、30cmくらいになった患者さんもいました。さらに、このしこりが感染を起すと、痛みや発赤、腫脹(炎症を起こして腫れあがること)が生じます。当院を訪れる患者さんは、この段階で来院されるかたも多いです。

お尻にできる主なできもの

●粉瘤（アテローム）

良性の腫瘍。皮下に皮膚と似た構造の袋ができて、そこに角質（垢）が詰まることでできる。小さいときは一見ニキビのようだが、ニキビのように自然に治ることはない。

●せつ（癰）

皮下の毛包というところが細菌で炎症を起こし、それが周囲に広がり赤く腫れて膿がたまる。一般に「おでき」と言われるのがこれ。

●慢性膿皮症

初期はニキビのような小さな吹き出物だが、再発をくり返し、しだいに広範囲に広がっていく。皮膚が色素沈着で黒くなり、融合して大きくなることもある。

●痔ろう（あな痔）

肛門の直腸側にあるくぼみに細菌が侵入・感染して炎症を起こし、肛門の近くに膿を持ったしこりができる。肛門科での手術が必須。



そのほかにもお尻のできものには多数の種類があり、いずれもパツと見は似て見えることも多い。できもの種類を見極め、適した治療を行うことが重要です。

手術の所要時間は、当院では紡錘形に切開する場合は15分程度、くりぬき法で5分程度、いずれも日帰り手術が可能です。ただし、炎症性の粉瘤に対しては、粉瘤を切開して排膿のみを行う医療機関もまだ多く、残

言えない悩み、募集中
この連載で取り上げてほしい悩みを募集します。年齢と性別、悩みの内容を明記のうえ（お名前やご住所は必要ありません）、下記にお手紙をお送りください。
113-8560
東京都文京区湯島2-31-8
安心編集部
「安心相談室」係

粉瘤に限らず、すべてのできものにいえることですが、気になるからといって、無理にできものやしこりを押しつぶしたりすると、炎症を併発し、痛みを伴うようになります。特に粉瘤の場合は、自分でつぶす等いじり続けると、慢性的な刺激で粉瘤の袋が周囲と癒着しやすくなります。加えて粉瘤は、外科的手術で袋ごと摘出しないと、基本的にはなくなりません。無理に押しつぶして中の垢だけを出しても、袋が残って

いるので、そこにまた垢がたまってしまふからです。ご質問の内容を拝見すると、お尻の同じ場所にでき、その後ずつとあつたしこりが膨れて痛みを伴ったとのこと。炎症性の粉瘤を疑い、一度受診されることをお勧めします。

正体をきちんと見極め 適した治療を行う

手術は、患部の皮膚を紡錘形（レモン型）に切開して、粉瘤を袋ごと取り出す「切開法」が

一般的ですが、当院では患者さんの負担がさらに小さく傷跡が目立たない「くりぬき法」という方法を用いています。くりぬき法は、専用の器具で患部の中心に小さな穴を開けて、袋の中の垢をもみ出し、小さな粉瘤なら、このときに袋もいっしょに排出されます。袋が周囲に癒着していて排出されない場合は、ピンセットとはさみを用いて穴から袋を摘出します。局所麻酔を使用するので、痛みはほぼありません。

このくりぬき法ですと、切開法に比べて痛みの消退と傷の治りが早く、翌日には痛みがほぼ改善します。傷跡も目立たなくなることも多いです。

また、先にお話ししたように、お尻のできものにはさまざまな種類があります。種類によって、一過性のもので、粉瘤のように良性ですが治療が必要なもの、悪性のものであるものなどいろいろあるので、できものの正体をきちんと見極め、適した治療を行うことが望まれます。

皮膚科を選ぶ際には、当院ではなくとも、皮膚科専門医であるかどうか、一つの目安になるでしょう。日本皮膚科学会が、ホームページで日本全国の皮膚科専門医（ページ外参照）を紹介しています。受診の際の参考にしてみてください。